

2013年度 第2四半期決算説明会

第90期：第2四半期累計期間(2013年4月1日～2013年9月30日)

2013.11.14



太平洋工業株式会社

目 次

1. 会社の概要
2. 2013年度第2四半期業績実績
3. 2013年度業績予想
4. 長期ビジョン・中期経営計画

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 当社の概況

- ◆創業 1930年8月
- ◆代表者 社長 小川信也
- ◆資本金 43億2千万円
- ◆株式 東証・名証一部上場（'70年8月） 証券コード:7250

セグメント		プレス樹脂製品 事業	バルブ製品事業		その他	合計	
事業			タイヤバルブ・制御機器事業	TPMS事業			
単 独	売上高('13予想)	393億円 65%	107億円 18%	100億円 17%	—	600億円	
	人 員	1,040人	490人		100人	1,630人	
	主要工場	西大垣、東大垣 養老、九州 栗原、若柳	美濃、北大垣		北大垣	—	国内8工場
連 結	売上高('13予想)	625 億円	269億円		6億円	900億円	
	人 員	2,100人	955人		75人	3,130人	
	海外生産拠点	台湾、米国、中国	台湾、韓国、タイ		米国	—	5ヶ国 7会社
主要顧客		トヨタ、ダイハツ、日野 三菱、ホンダ、スズキ プライムアースEVエナジー	ブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴム、東洋ゴム イノアック、ミシュランタイヤ、トピー工業 デンソー、豊田自動織機、サンデン、HVCC ヴァレオ、パナソニック、東芝		トヨタ ホンダ 日産	地域企業	
主要製品		プレス加工 樹脂加工、金型	タイヤバルブ、バルブコア 空調用制御弁 カーエアコン用コンプレッサー部品		TPMS	ゴルフ場 ソフトウェア 保険代理店	

1-2 企業結合の状況

1. 連結会社:13社

■ プレス樹脂製品事業 ■ バルブ製品事業

区分	会 社 名	事業分野			主な事業内容	設立	議決権 比率	'13 売上高 予想	人員
		プレス	バルブ	その他					
国内	ピーアイシステム株式会社 (PSC)			●	情報処理、ソフト開発・販売	1987年	100%	4億円	55人
	太平洋開発株式会社 (PDC)			●	ゴルフ場資産管理(養老CC)	1972年	66.5%	2億円	20人
	太養興産株式会社 (TYC)			●	ゴルフ場運営(養老CC)	2005年	(PDC) 100%	—	—
	太平洋産業株式会社 (TSC)	●			自動車用プレス製品の製造・販売	1974年	100%	11億円	25人
	国内連結会社 計							19億円	100人
海外	米国	Pacific Industries USA Inc. (PIU)	(持株会社)			下記米国会社の統括管理	1988年	100%	—
		Pacific Manufacturing Ohio Inc. (PMO)	●	●		自動車用プレス製品・バルブ関連製品の製造・販売	1999年	(PIU) 100%	198億円 520人
	台湾	太平洋汽門工業股份有限公司 (PVT)	●	●		自動車用プレス製品・バルブ関連製品の製造・販売	1984年	99.5%	58億円 280人
	韓国	太平洋バルブ工業株式会社 (PVI)		●		バルブ関連製品の製造・販売	1987年	100%	14億円 80人
		太平洋エアコントロール工業株式会社 (PAC)		●		カーエアコン部品の製造	2004年	(PVI 8%) 92%	32億円 180人
	タイ	Pacific Industries(Thailand) Co.,Ltd. (PIT)		●		バルブ関連製品の製造・販売	1989年	75%	16億円 190人
	中国	太平洋工業(中国)投資有限公司 (PCC)	(持株会社)			下記中国会社の統括管理	2012年	100%	— 5人
		天津太平洋汽車部件有限公司 (TPA)	●			自動車用プレス製品の製造・販売	2005年	100%	41億円 220人
		長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 (CPH)	●			自動車用プレス製品の製造・販売	2011年	(PCC 74%) (TPA 11%) 1.3%	5億円 45人
	海外連結会社 計							367億円	1,520人

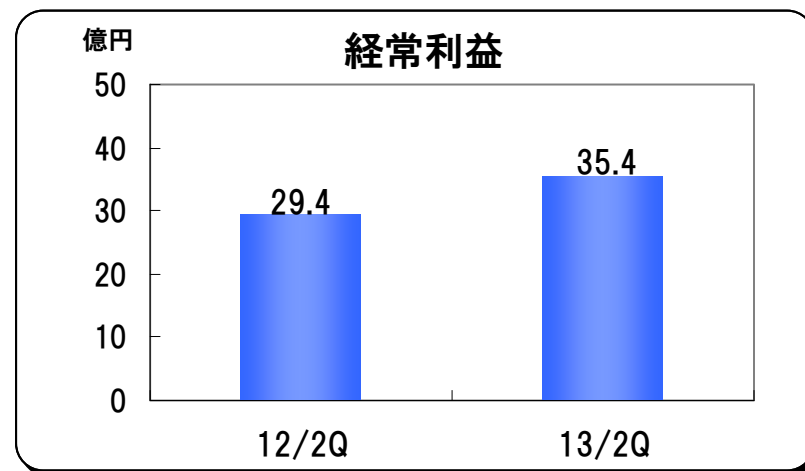
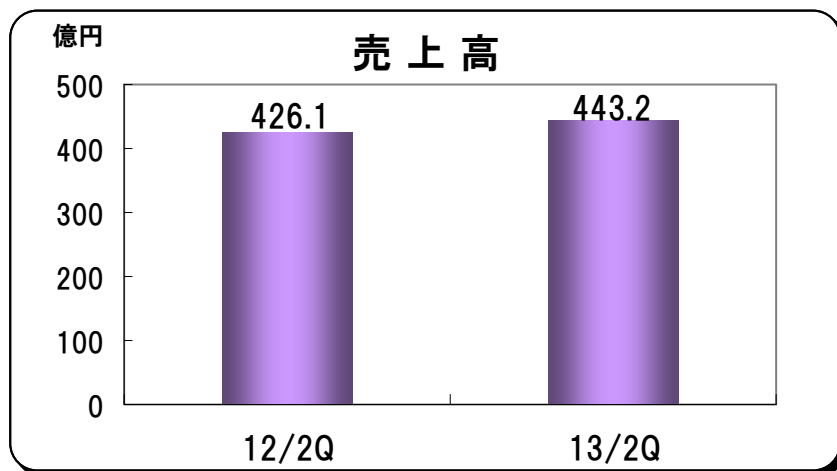
2. 持分法適用会社:1社

国内	PECホールディングス株式会社 (PEC)	●	●		オートフューズ・電気小物製品の製造・販売	1961年	22.6%	164億円	650人
----	-----------------------	---	---	--	----------------------	-------	-------	-------	------

2-1 第2Q 連結業績

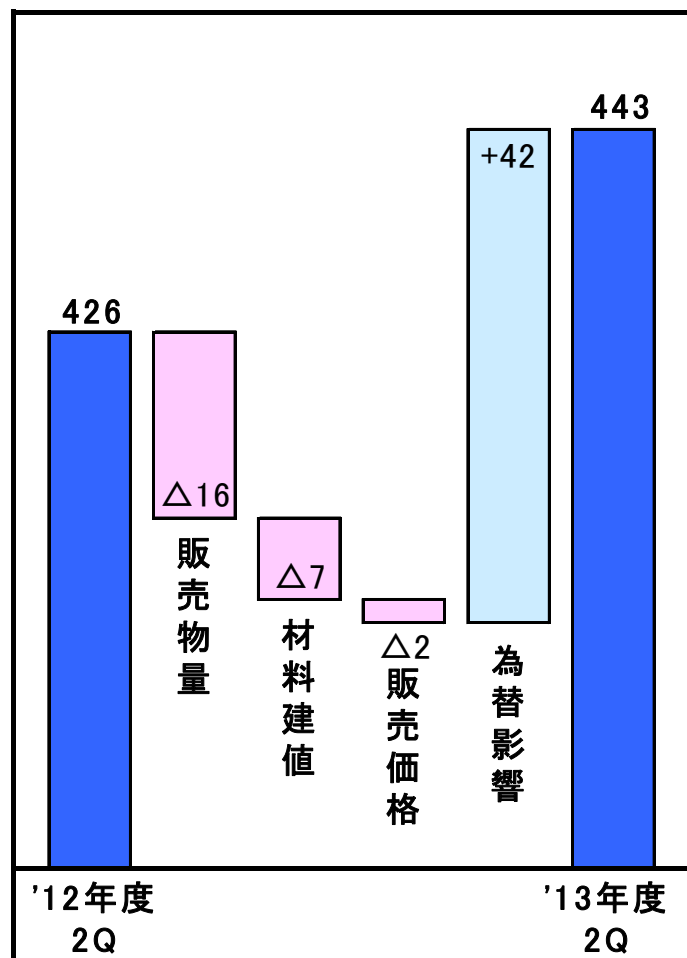
(百万円、%)

	前第2 四半期	第2四半期				前四半期比		第2四半期累計
		7/31 前回予想値	実績	前回予想比		増減	増減率	
				増減	増減率			
売上高	42,613	43,500	44,325	825	+1.9	1,711	+4.0	2期連続の増収
営業利益	2,548 6.0%	2,700 6.2%	2,827 6.4%	127	+4.7	278	+10.9	2期連続の増益
経常利益	2,941 6.9%	3,300 7.6%	3,542 8.0%	242	+7.3	600	+20.4	2期連続の増益 過去最高
四半期純利益	1,277 3.0%	2,100 4.8%	2,269 5.1%	169	+8.0	992	+77.7	2期連続の増益 過去最高

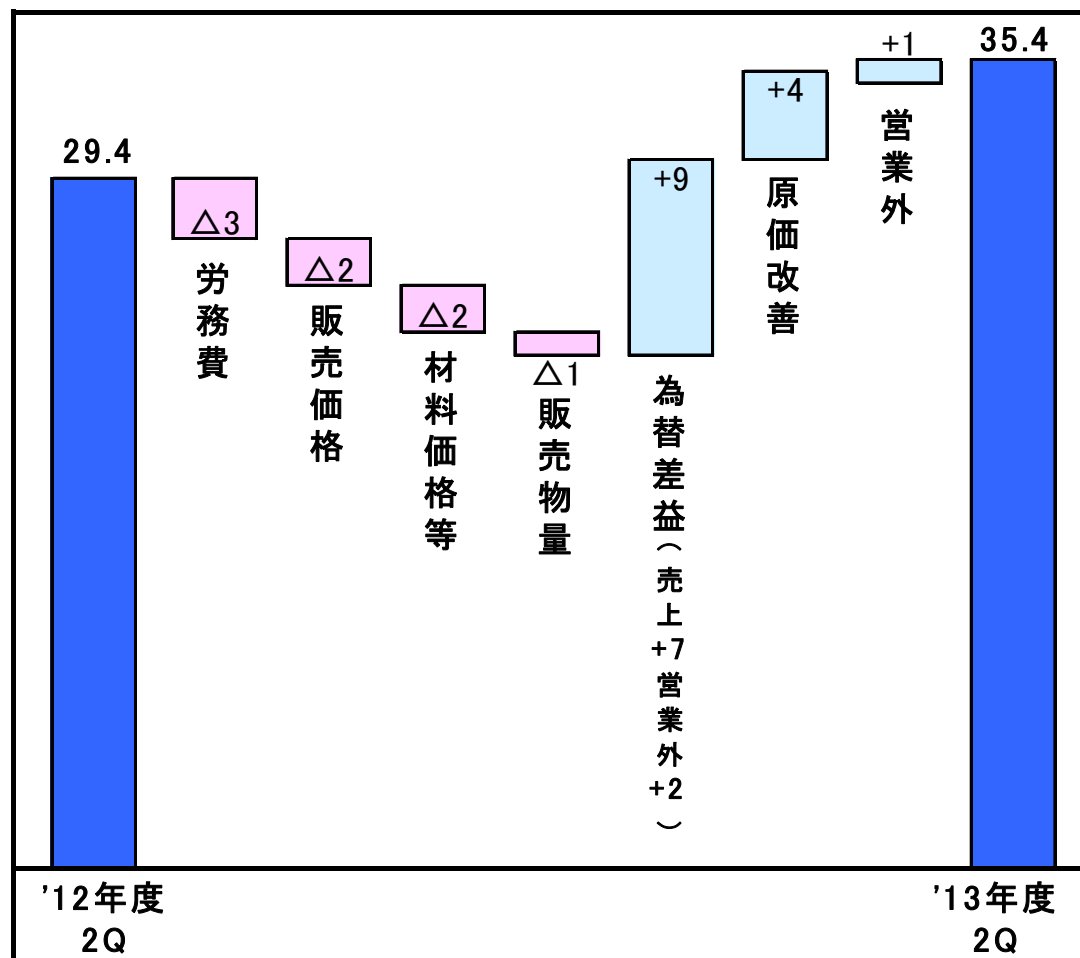


2-2 第2Q 連結利益増減要因

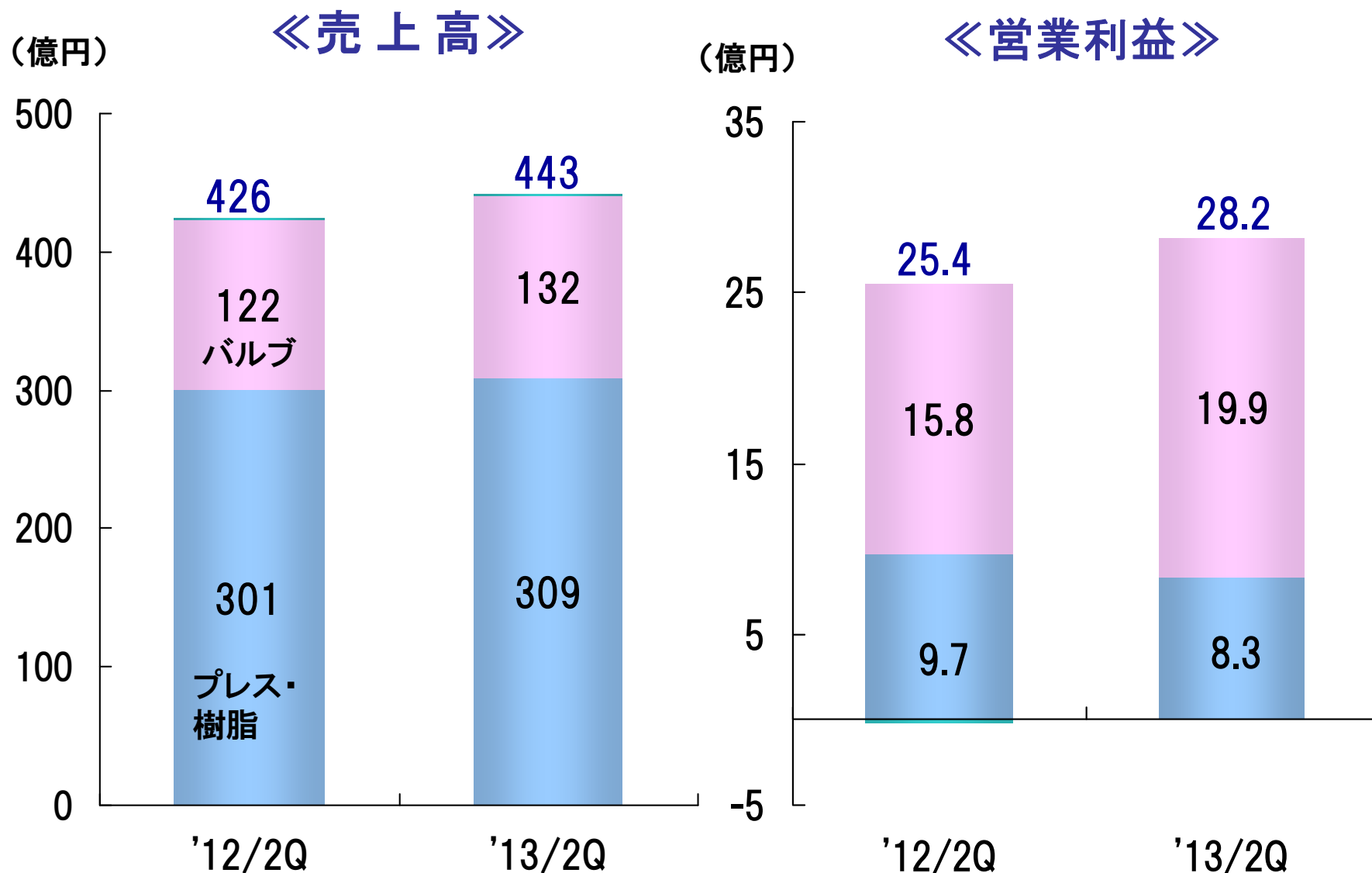
《13年度2Q 対 12年度2Q》
売上高+17億円



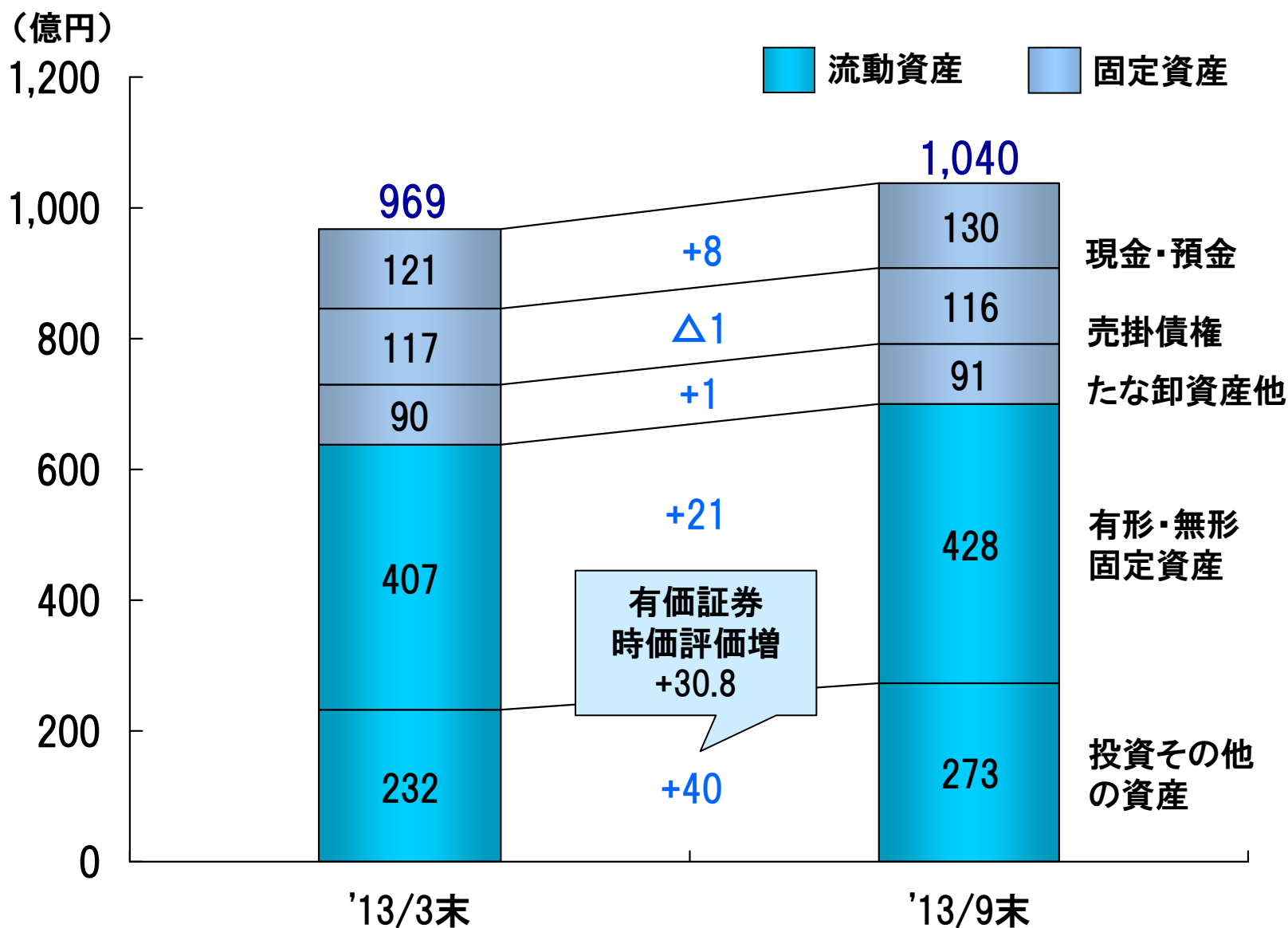
《13年度2Q 対 12年度2Q》
経常利益+6億円



2-3 第2Q 連結事業別セグメント



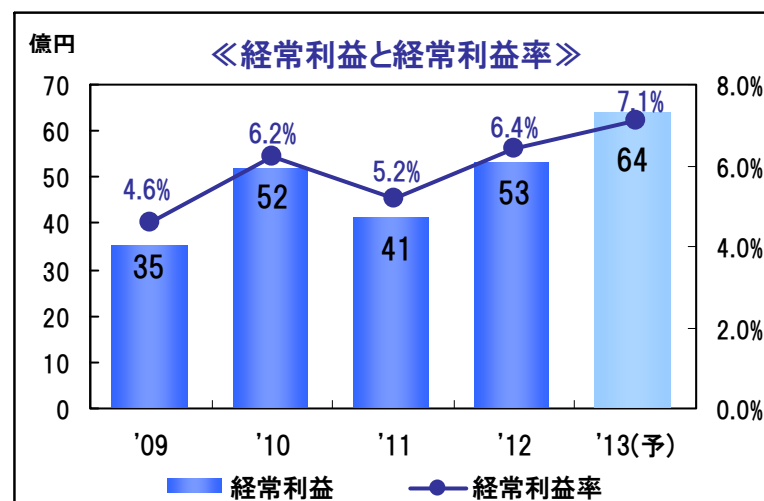
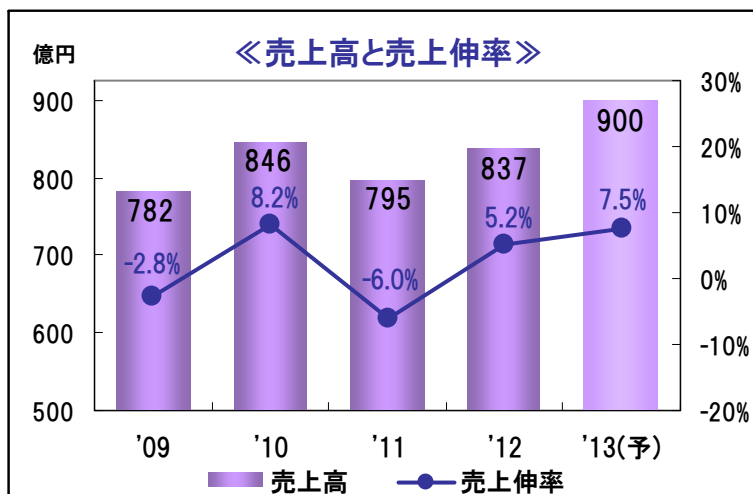
2-4 第2Q 連結総資産増減内訳



3-1 通期 連結業績予想

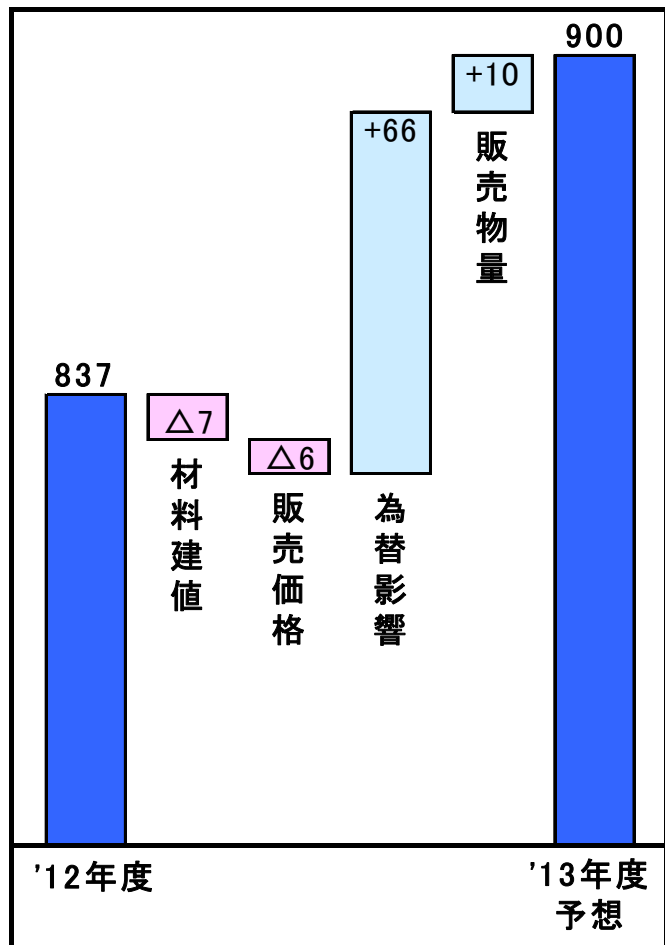
[百万円]

	'11	'12	'13 (7/31予想)	'13 (今回予想)	前回予想比		前期比		連単 倍率	通期(予想)
					増減	増減率	増減	増減率		
売 上 高	79,579	83,700	86,500	90,000	3,500	4.0%	6,300	7.5%	1.5	2期連続の増収 過去最高
営 業 利 益	3,699	4,340	5,000	5,400	400	8.0%	1,060	24.4%	1.3	2期連続の増益 過去最高
経 常 利 益	4,147	5,372	5,700	6,400	700	12.3%	1,028	19.1%	1.2	2期連続の増益 過去最高
当 期 純 利 益	3,297	2,807	3,700	3,900	200	5.4%	1,093	38.9%	1.2	2期振りの増益
売 経 常 上 利 益 高 率	5.2%	6.4%	6.6%	7.1%	0.5%		0.7%			
R O E	8.6%	6.4%	7.2%	7.5%	0.3%		1.1%			
R O A	4.8%	5.7%	5.7%	6.3%	0.6%		0.6%			
一 株 当 り 純 資 産 (円)	748	900	1,012	1,036	24	2.3%	136	15.1%		

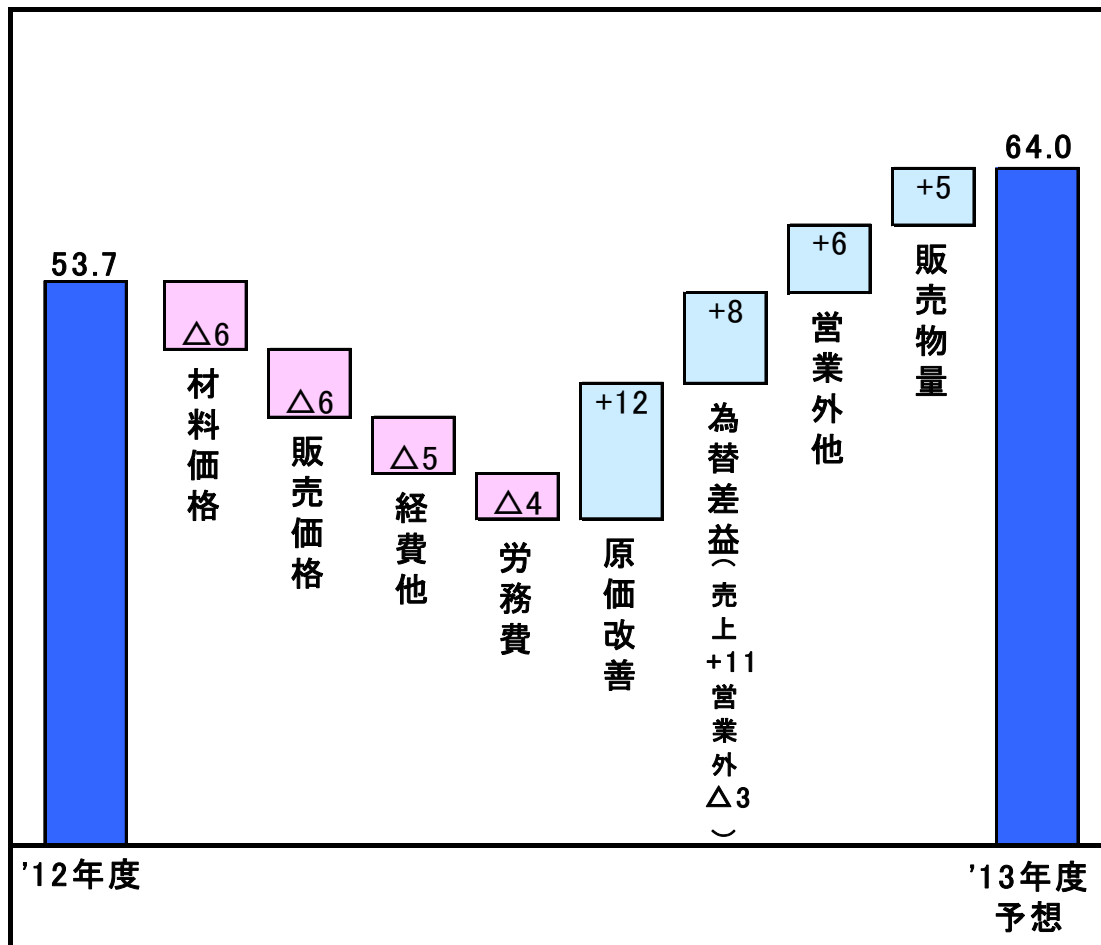


3-2 通期 連結利益増減要因

《13年度予想 対 12年度》
売上+63億円

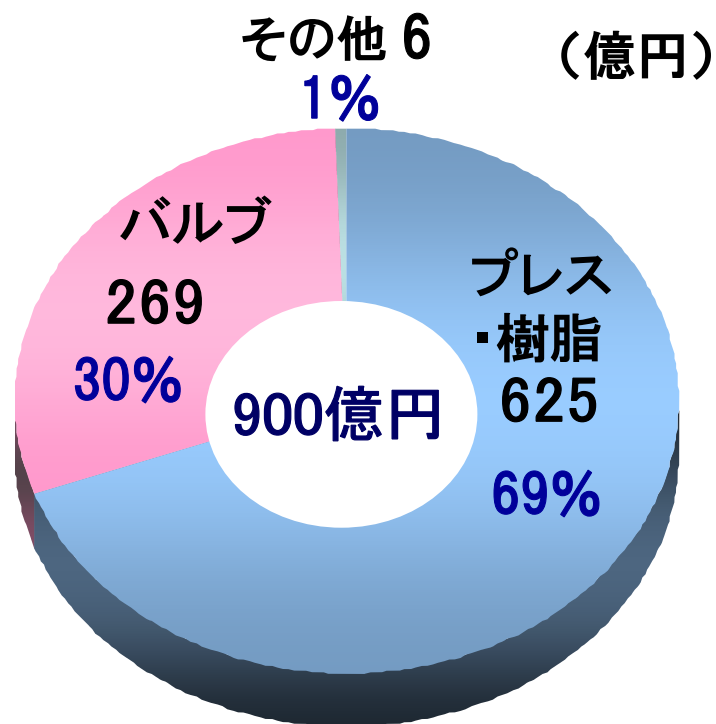


《13年度予想 対 12年度》
経常利益+10億円

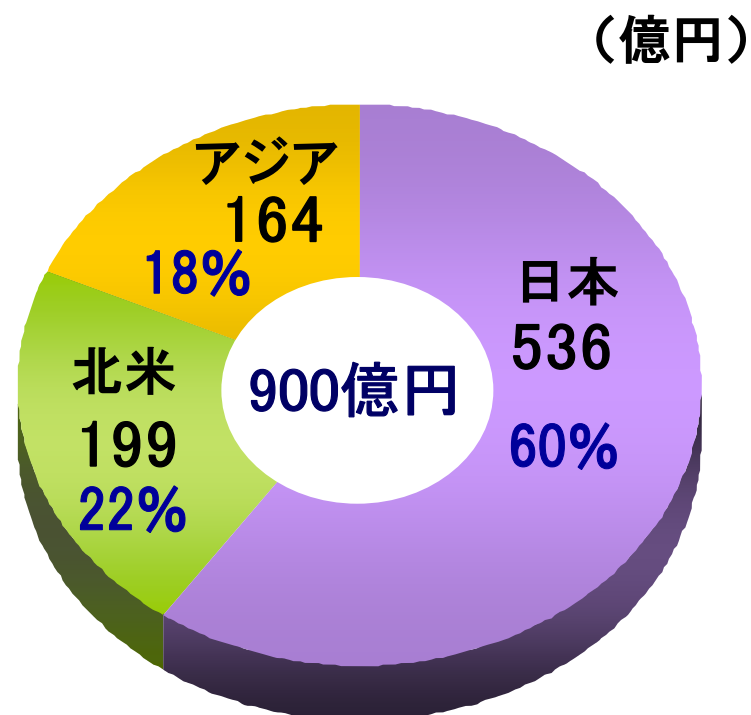


3-3 2013年度連結セグメント予想

事業別売上高

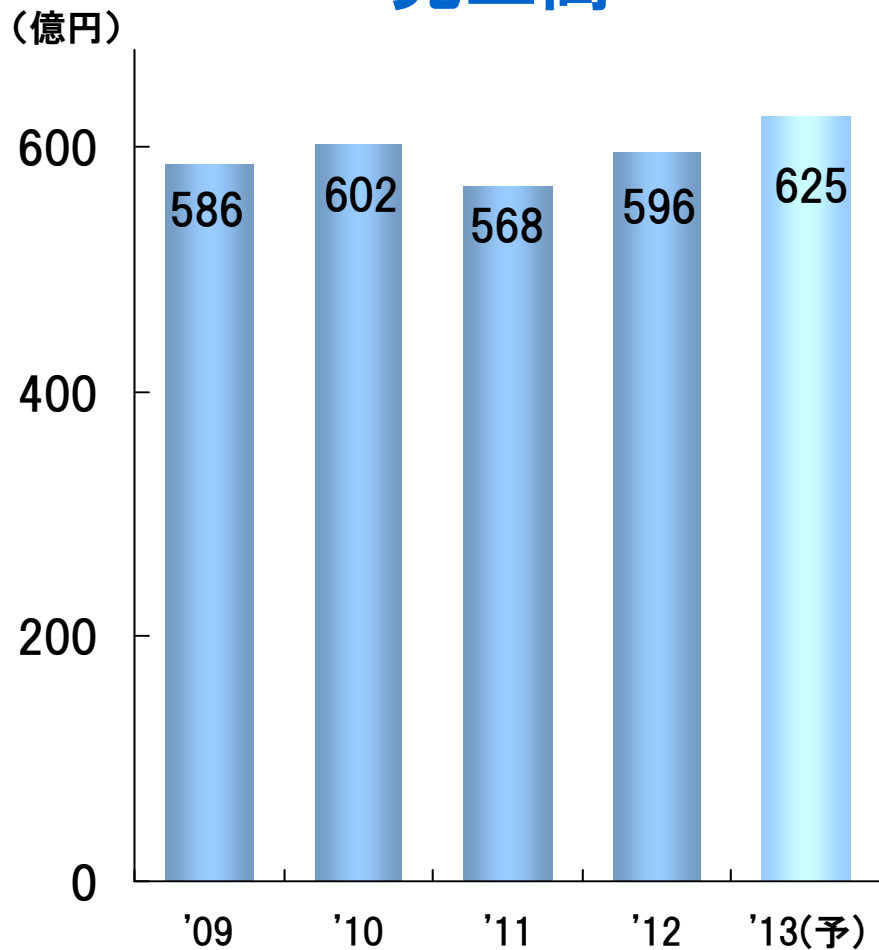


地域別売上高



3-4 事業別セグメント: プレス樹脂製品事業¹⁰

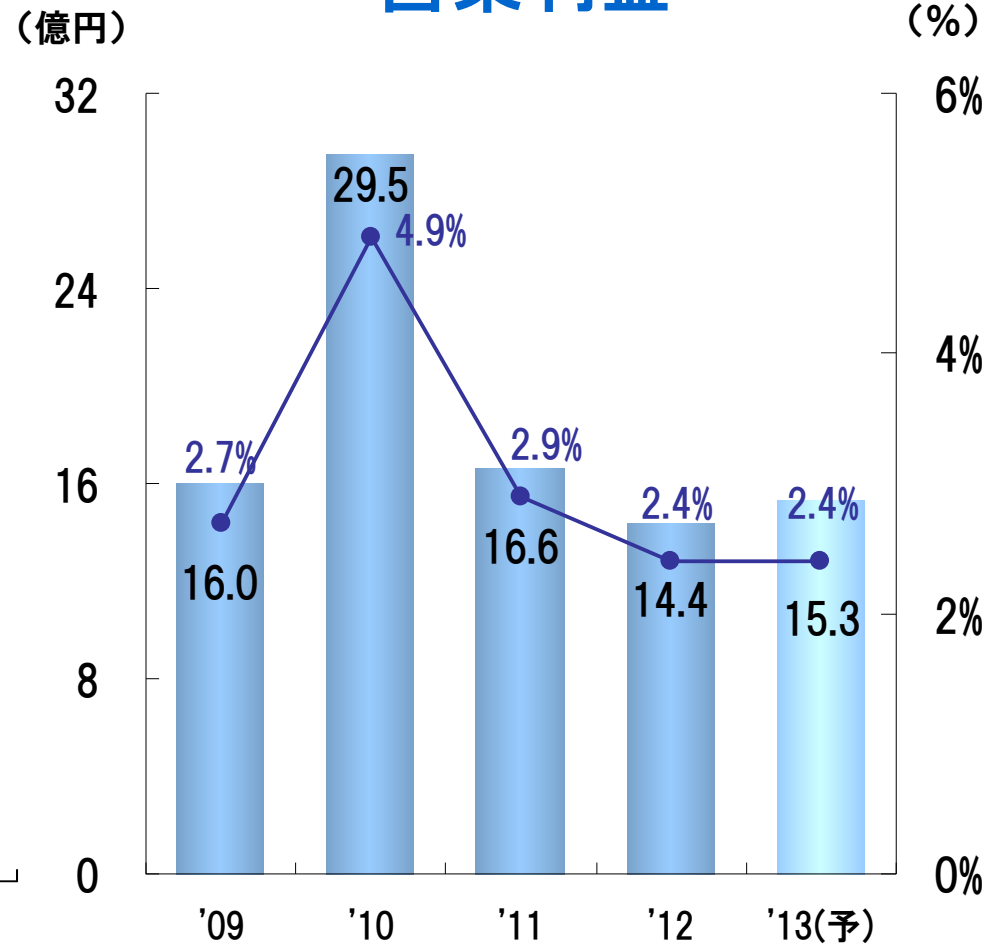
売上高



<売上高>

2013年度の売上高は、日本において減収が見込まれるものの、中国における販売回復・拡販効果や米国・台湾が堅調に推移する見込みであり、前期比4.8%の増収を見込む。

営業利益



<営業利益>

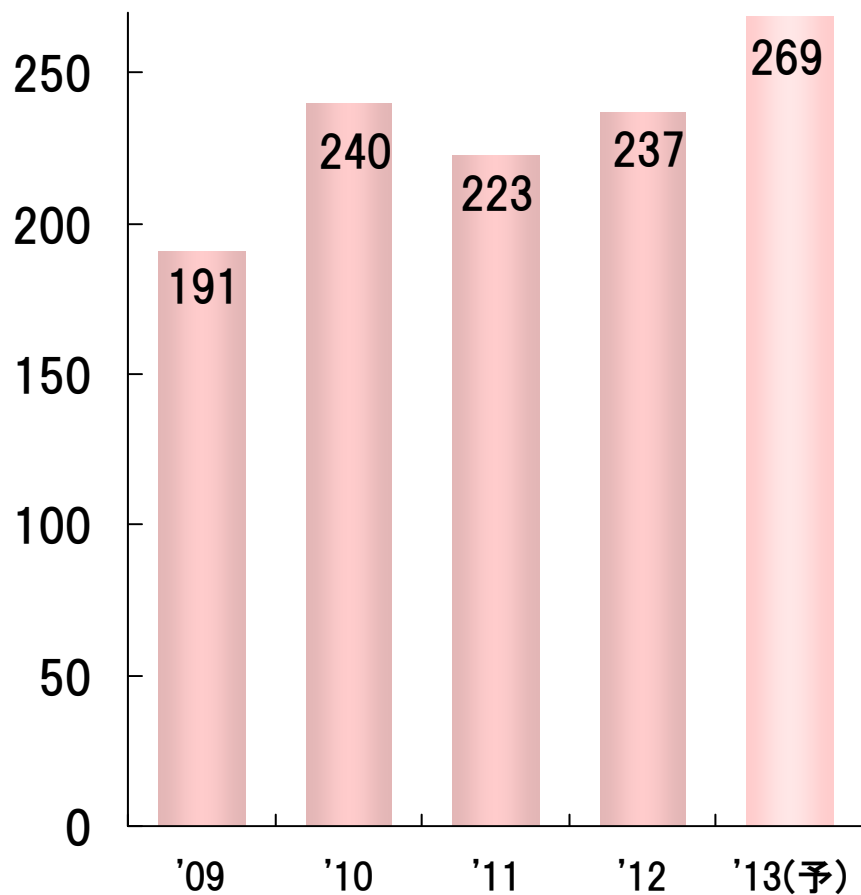
2013年度の営業利益は、販売価格の下落や経費の増加があるものの、原価改善の効果や米国・台湾における販売物量の増加により前期比5.6%の増益を見込む。

3-5 事業別セグメント:バルブ製品事業

11

売上高

(億円)



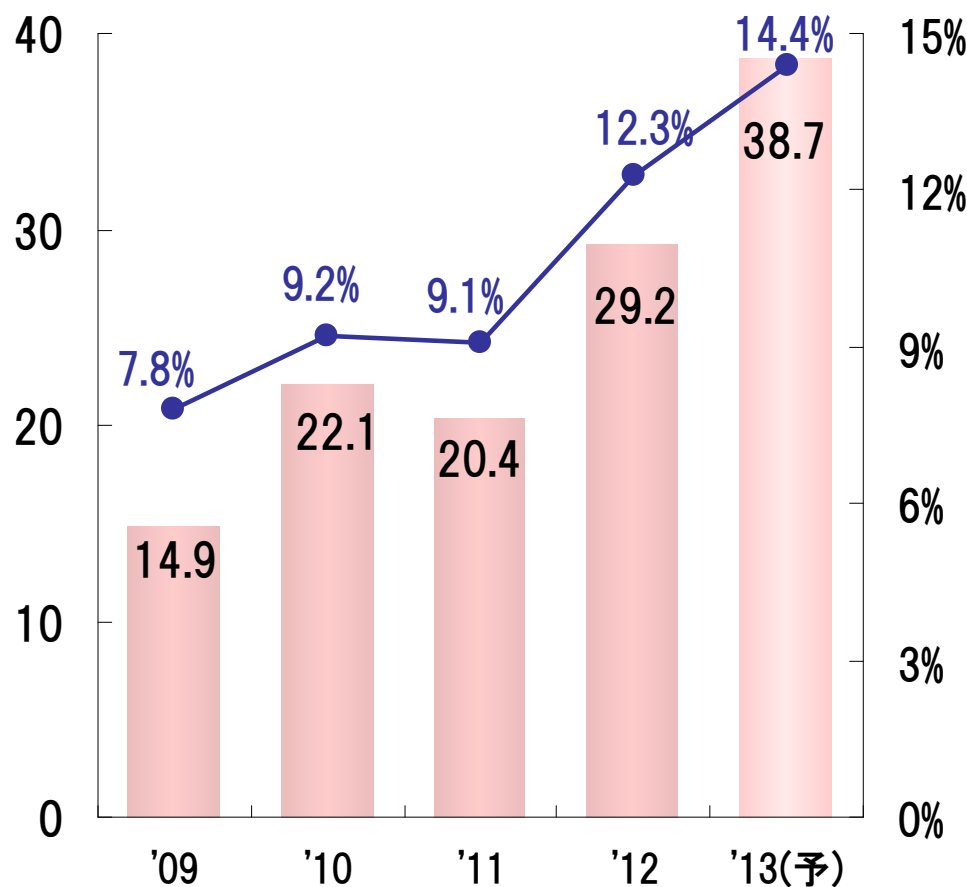
<売上高>

2013年度の売上高は、円安効果に加え、韓国におけるアルミダイカスト事業の拡販等が寄与し、前期比13.3%の増収を見込む。

営業利益

(億円)

(%)

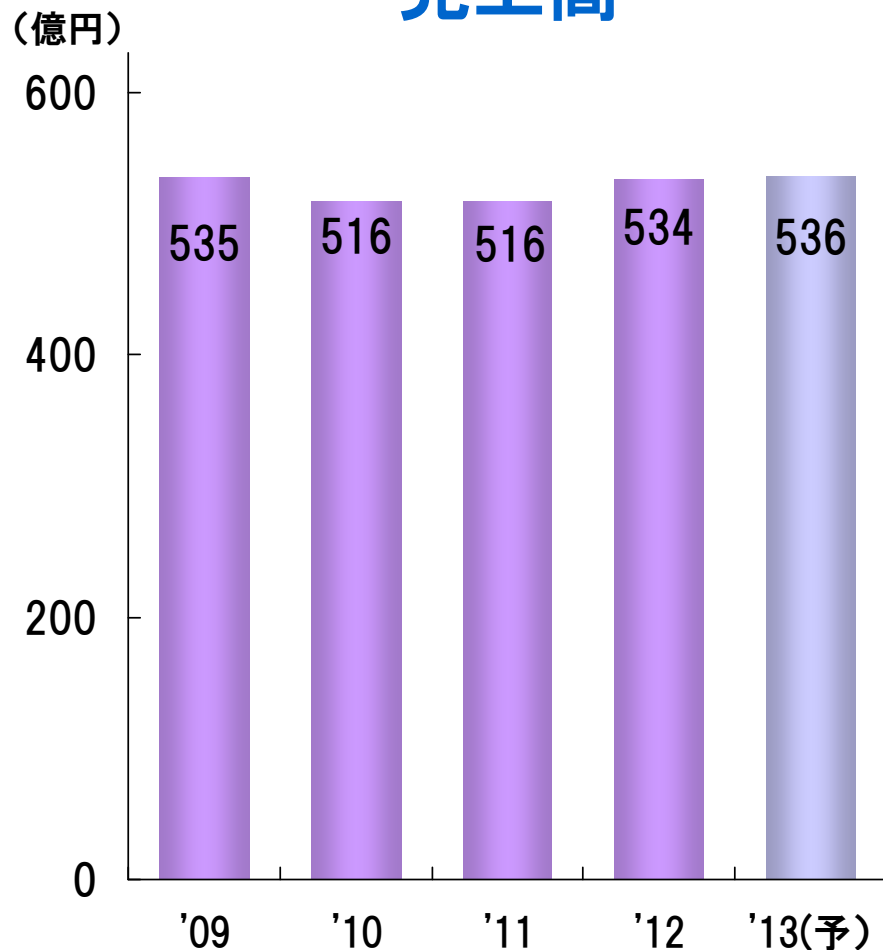


<営業利益>

2013年度の営業利益は、販売価格の下落や経費の増加があるものの、販売物量の増加や原価改善効果、為替差益により前期比32.1%の増益を見込む。

3-6 地域別セグメント:日本

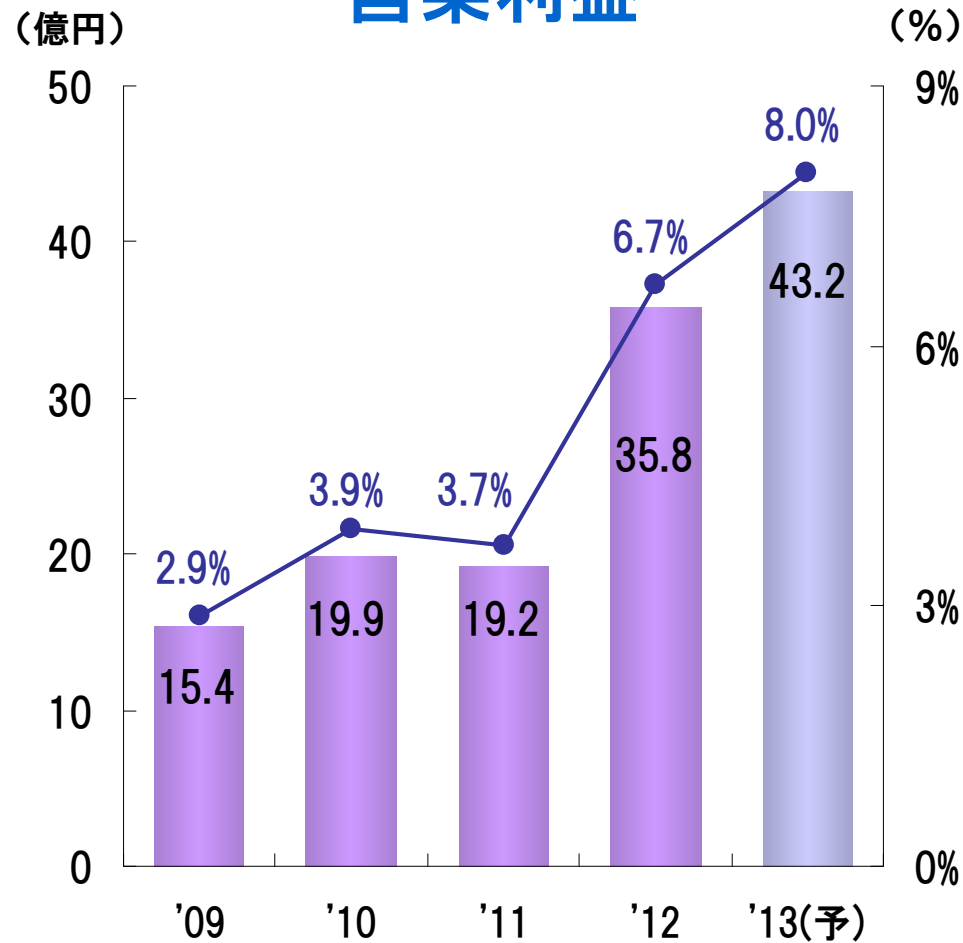
売上高



<売上高>

2013年度の売上高は、主要顧客の自動車生産台数が若干減少するものの、バルブ関連製品・TPMS製品の増加により、前期比0.5%の増収を見込む。

営業利益

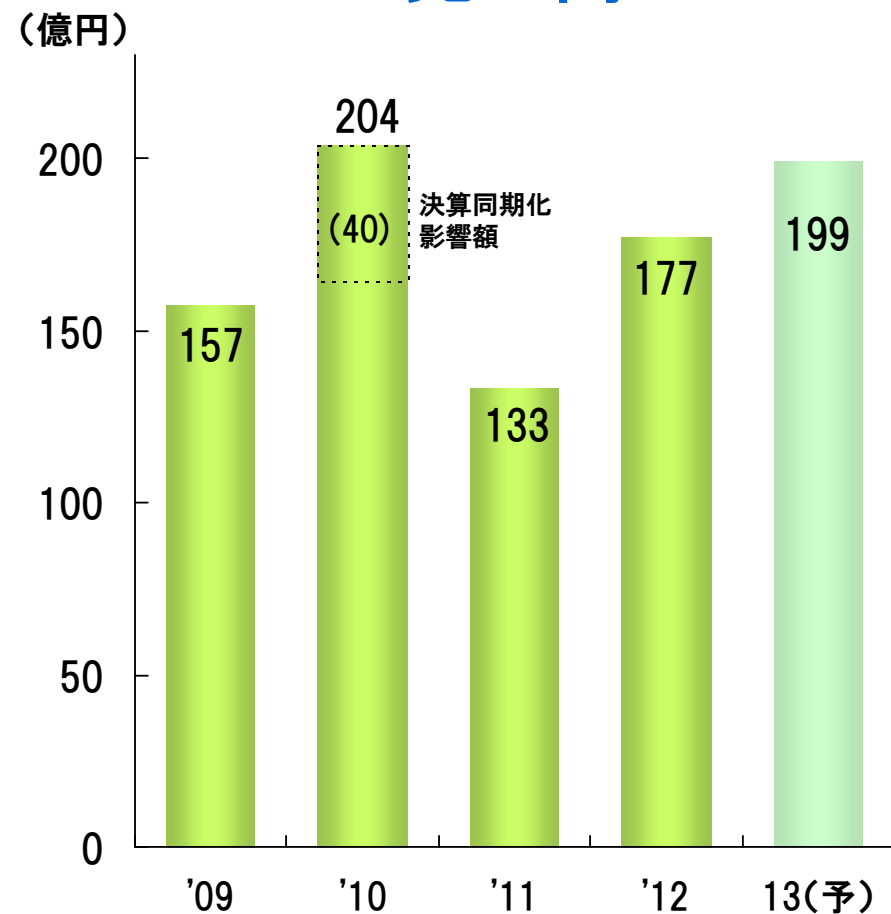


<営業利益>

2013年度の営業利益は、販売価格の下落や材料費のマイナスが見込まれるものの、原価改善の効果や円安による為替差益により、前期比20.6%の増益を見込む。

3-7 地域別セグメント:北米

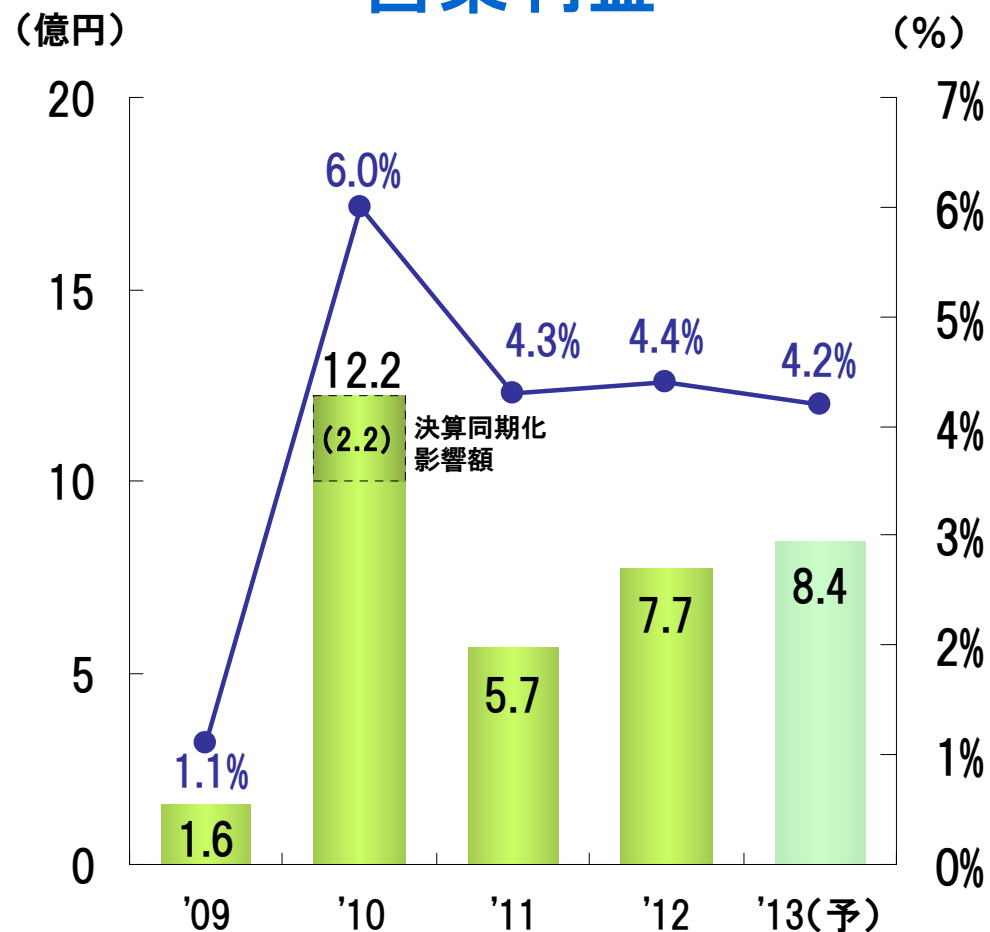
売上高



<売上高>

2013年度の売上高は、車種構成の変化や販売価格の低下があるものの、円安による為替換算差のプラス等があり、前期比12.4%の増収を見込む。

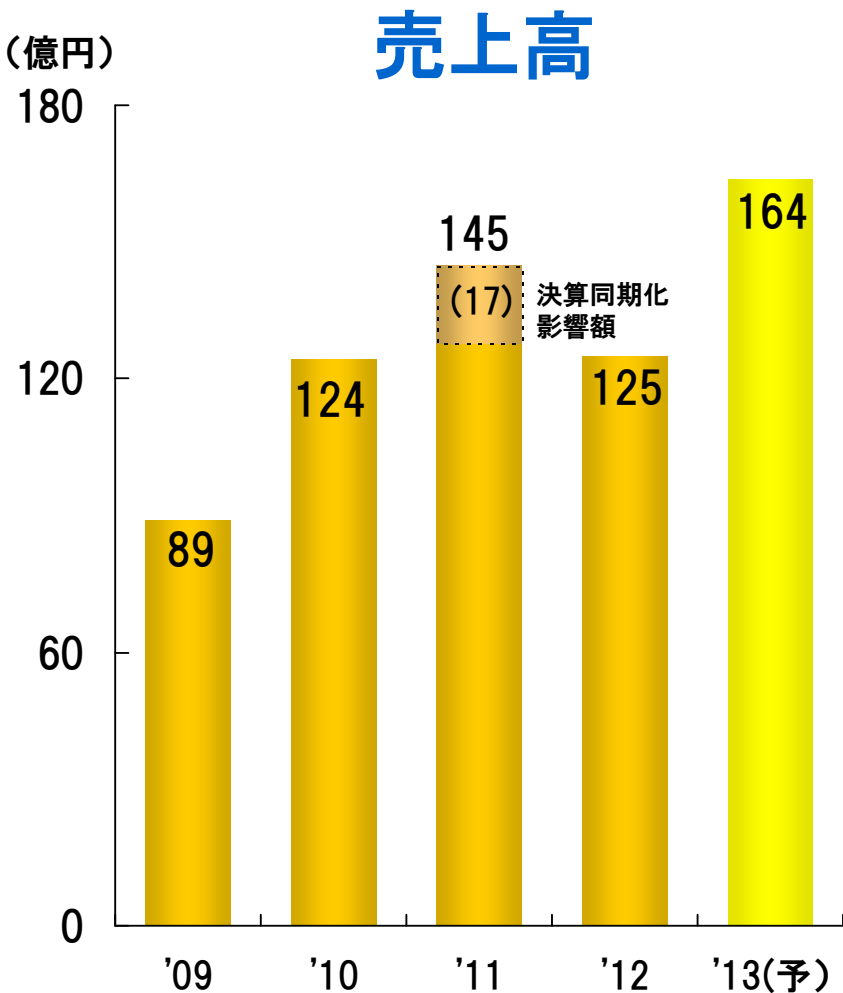
営業利益



<営業利益>

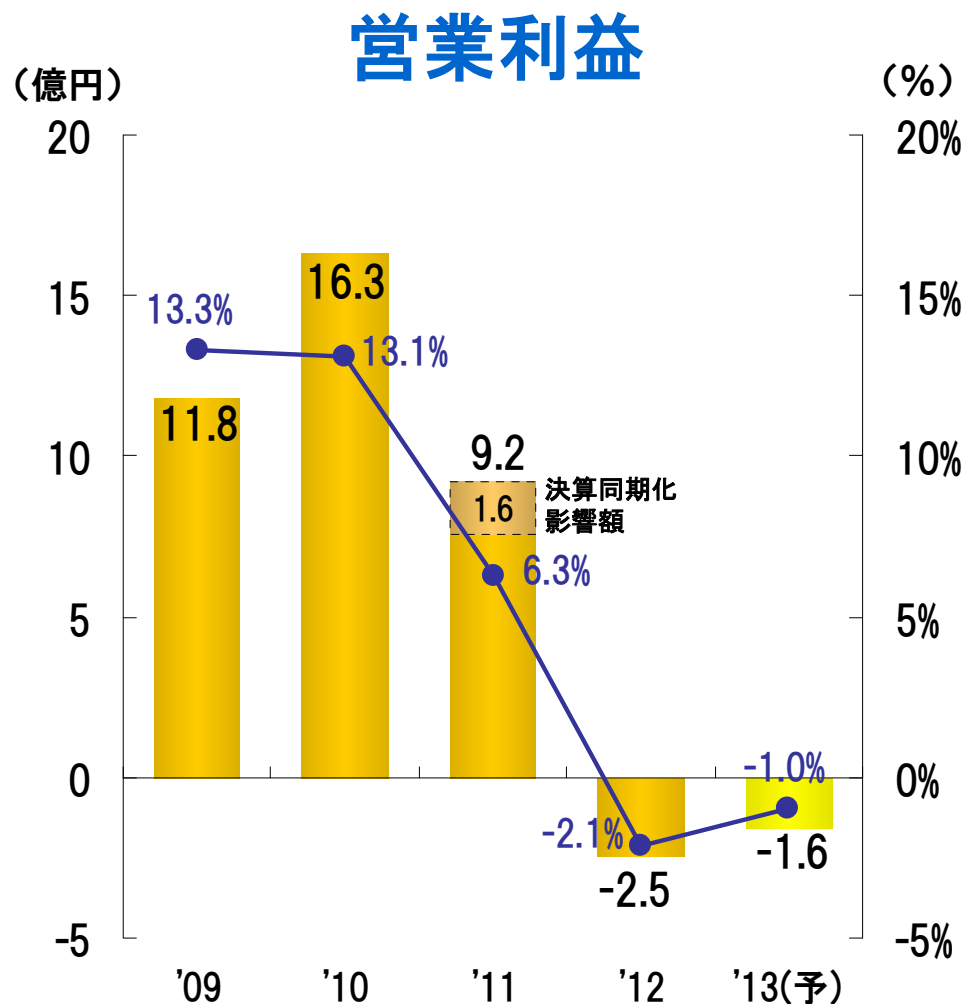
2013年度の営業利益は、販売価格の低下やTPMSの生産移管による初期コスト増を見込むものの、販売物量の増加や原価改善効果により、前期比8.7%の増益を見込む。

3-8 地域別セグメント:アジア



<売上高>

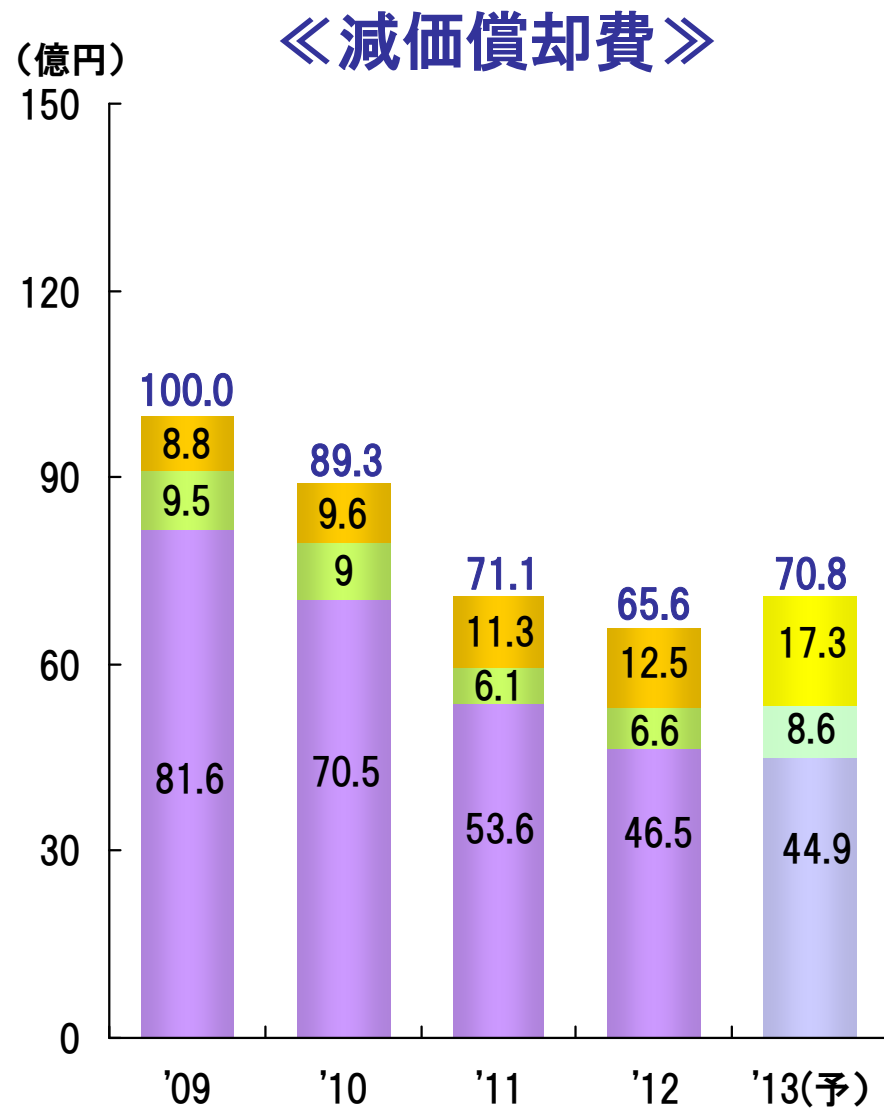
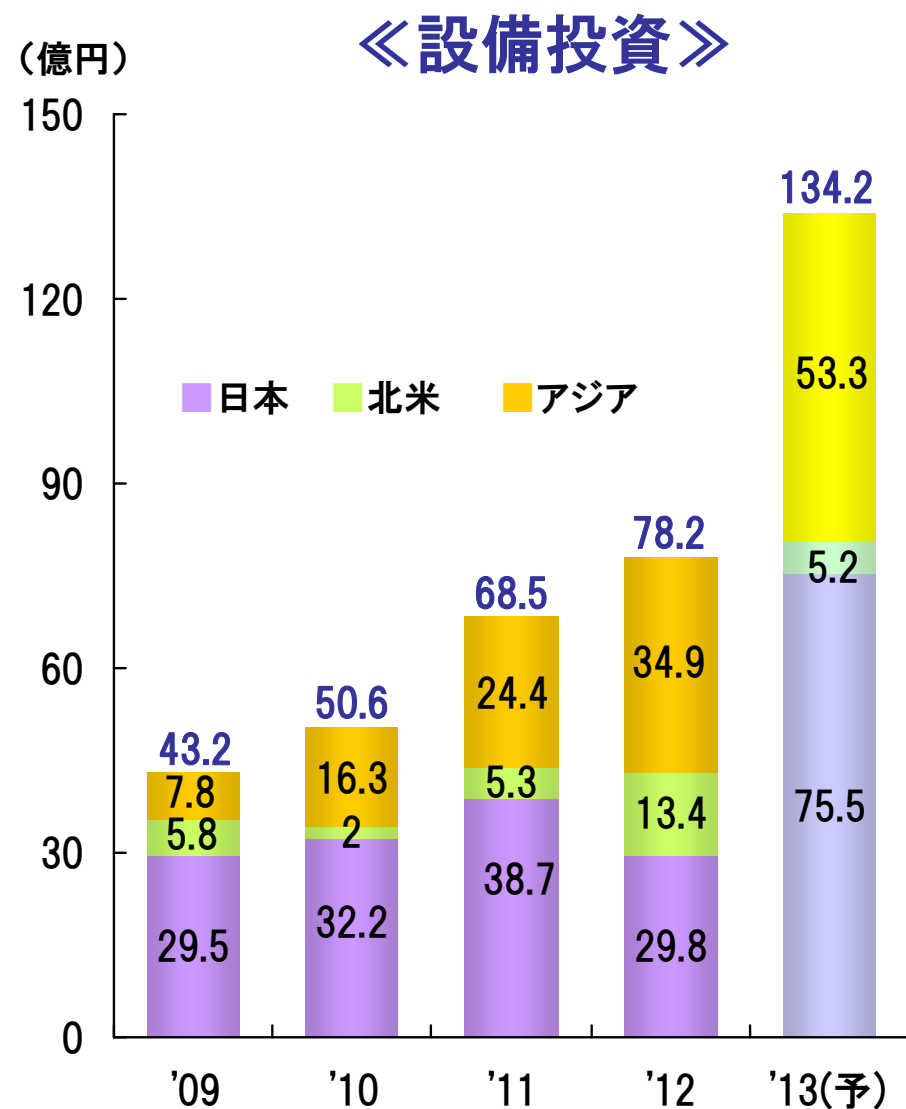
2013年度の売上高は、韓国・台湾・タイ・中国の全ての会社が拡販等により増加し、前期比30.8%の増収を見込む。



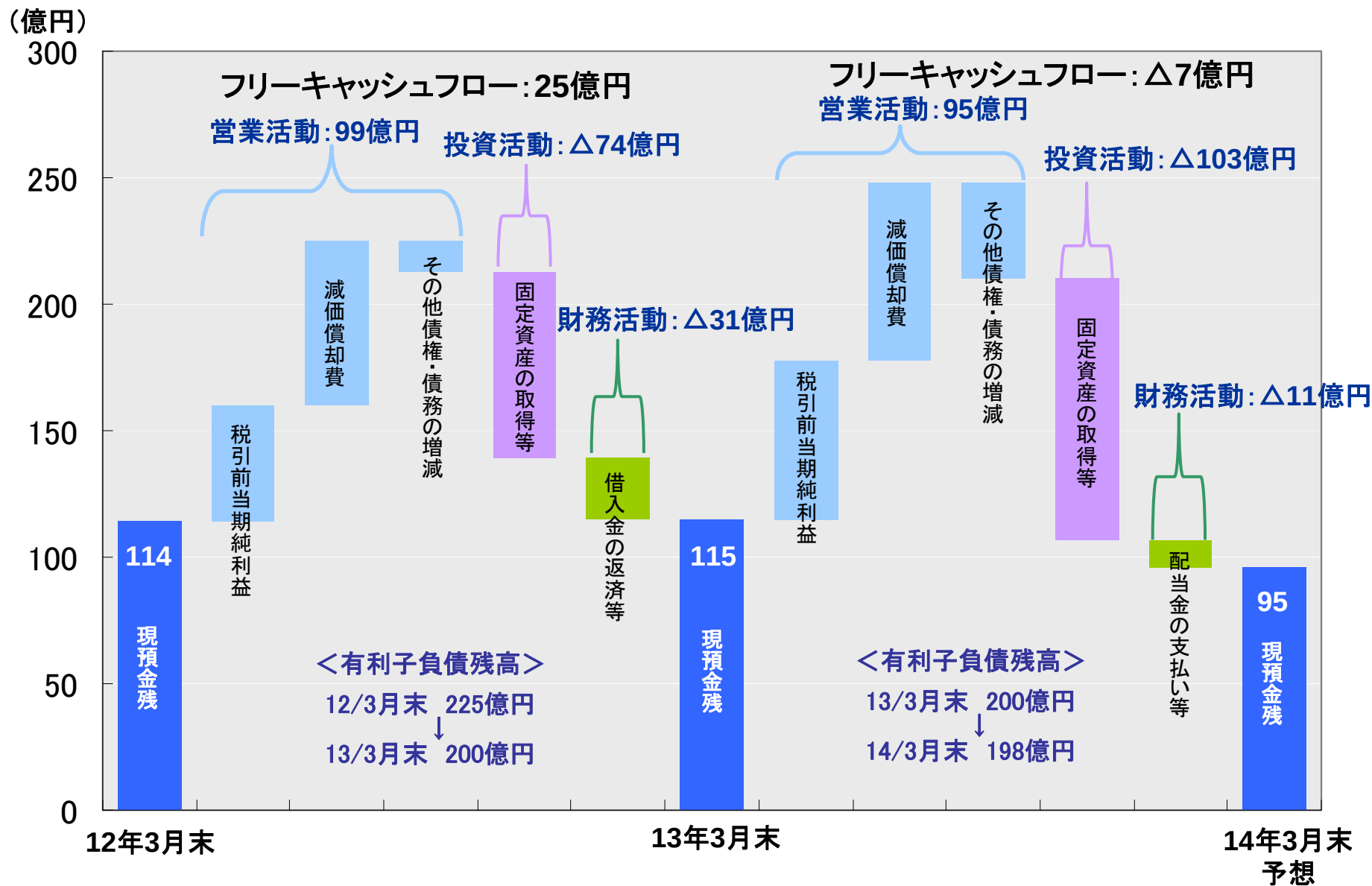
<営業利益>

販売物量の増加等があり前期に比べ利益は増加するものの、中国での型回収のマイナス、新事業立上げ費用増加等により赤字の継続を見込む。

3-9 連結設備投資・減価償却費予想



3-10 連結キャッシュフロー予想

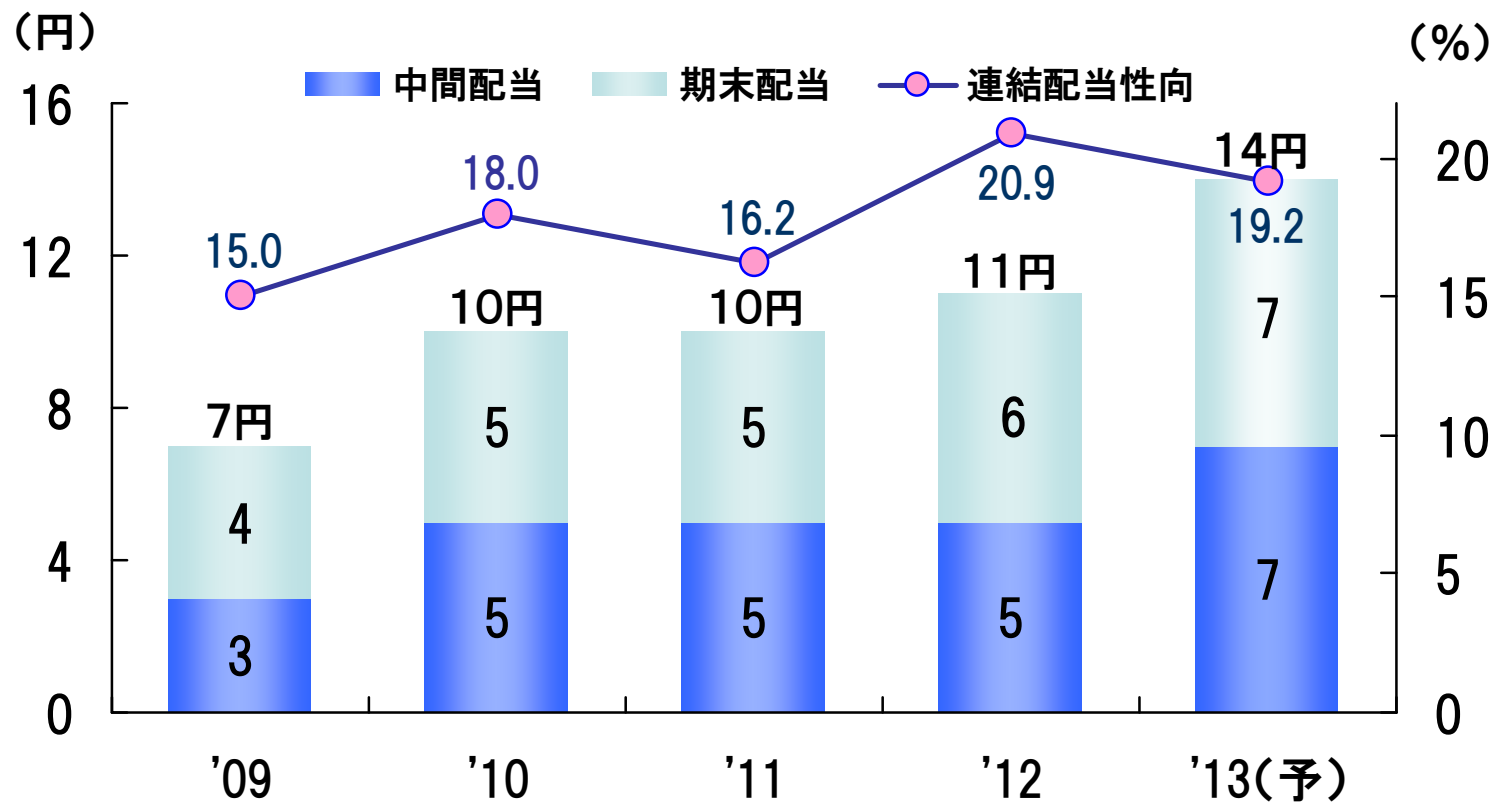


3-11 株主還元

■年間配当

2012年度 年間:11円(中間:5円 期末:6円)

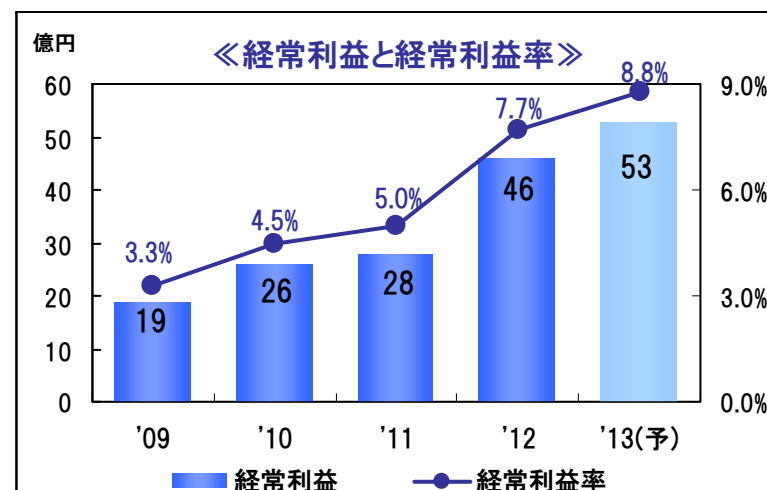
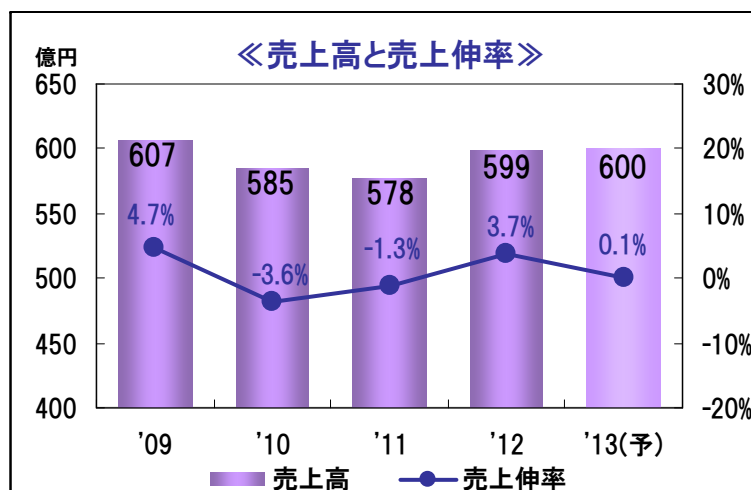
2013年度予想 年間:14円(中間:7円 期末:7円)



3-12 <参考>個別業績

[百万円]

	第2四半期		前期比		通期		前期比		通期(予想)
	'12	'13	増減	増減率	'12	'13	増減	増減率	
売上高	30,832	29,988	△ 844	△2.7%	59,966	60,000	34	0.1%	2期連続の増収
営業利益	2,028	2,413	385	19.0%	3,605	4,300	695	19.3%	2期連続の増益 過去最高
経常利益	2,529	3,132	602	23.8%	4,616	5,300	684	14.8%	5期連続の増益 過去最高
当期純利益	1,654	2,027	372	22.5%	2,953	3,300	347	11.8%	5期連続の増益
配当金(1株当り)	5円	7円	2円	40.0%	11円	14円	3円	27.3%	
売上利益高率	8.2%	10.4%	2.2%		7.7%	8.8%	1.1%		
ROE	—	—	—		7.7%	7.7%	0.0%		
ROA (円)	—	—	—		5.7%	6.2%	0.5%		
一株当たり純資産 (円)	669	825	156	23.3%	756	841	85	11.2%	



4-1 PACIFIC GLOCAL VISION 2020

19

GLOCALとは、「GLOBAL」と「LOCAL」を組み合わせた造語です。私達は、世界(GLOBAL)を舞台に成長を図り、それぞれの地域(LOCAL)の発展に貢献したいと思っています。

めざす企業像・機能のあり方

< 創立100周年 2030年への一里塚として策定 >

- 「連結経営」から「融合経営」へ
- 5つの“シンカ”(深化・進化・新化・真価・信加)を追求する企業

5つの“シンカ”



- ① 深化 : 改善する力
- ② 進化 : 革新する力
- ③ 新化 : 新技術・事業を起こす力
- ④ 真価 : 企業価値を高める力
- ⑤ 信加 : 信頼を勝ち取る力

CSRのトライアングル



4-2 中期経営計画「OCEAN-15」

トップクラスのグローバルな部品メーカーをめざす

深化 改善する力

進化 革新する力

新化 新技術・事業を起こす力

真価 企業価値を高める力

信加 信頼を勝ち取る力

キーワード

技術と海外
・
ものづくりは人づくり
・
CSRと環境保全

2015年 目標

連結売上高 : 950億円

連結経常利益 : 6%台

海外売上高比率 : 40%以上

総資産回転率 : 1.05

4-3 OCEAN-15の実現に向けて

「守りから攻めへ転換」

新たな市場を新技術・新製品・新事業で獲得

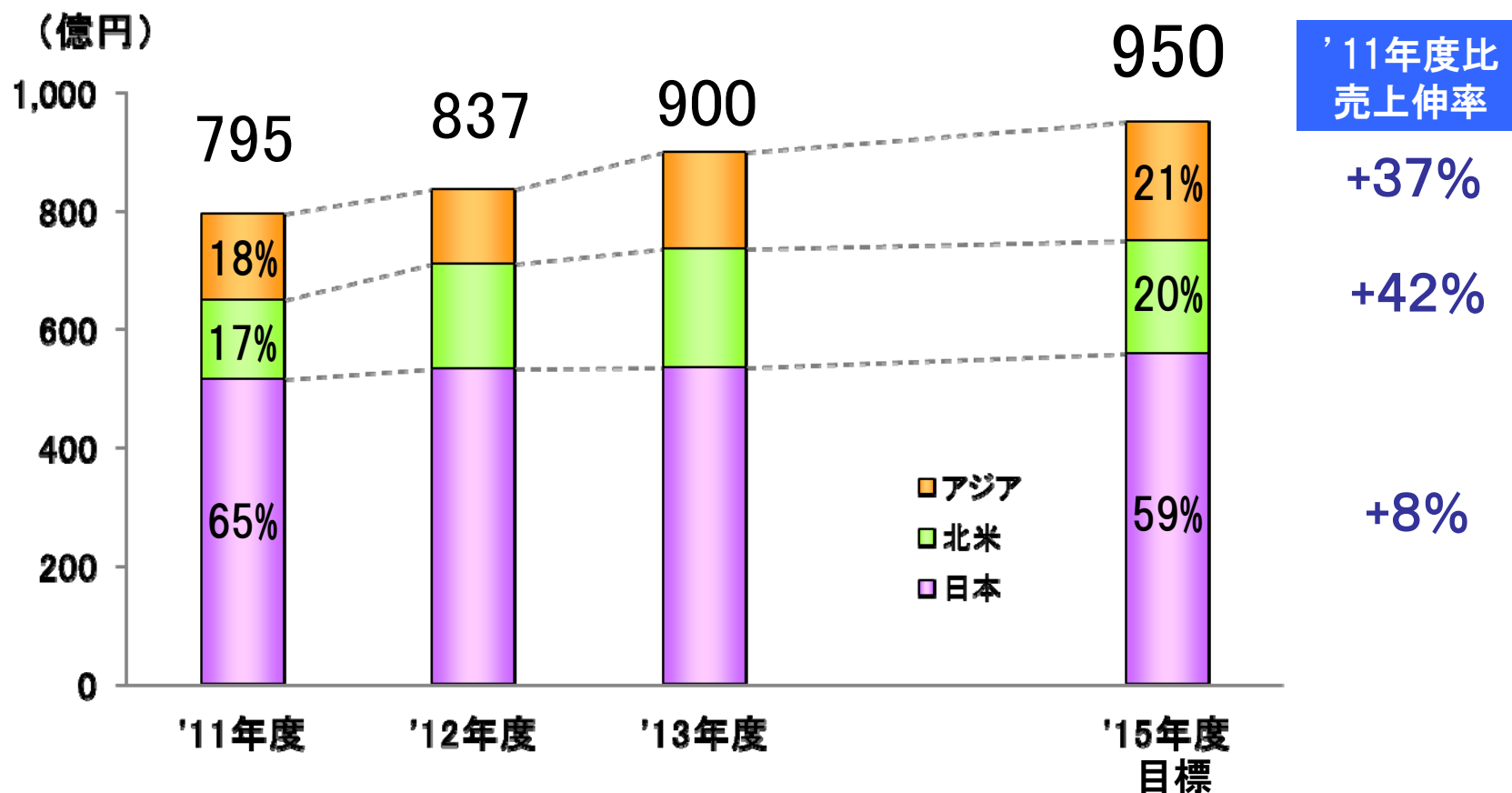
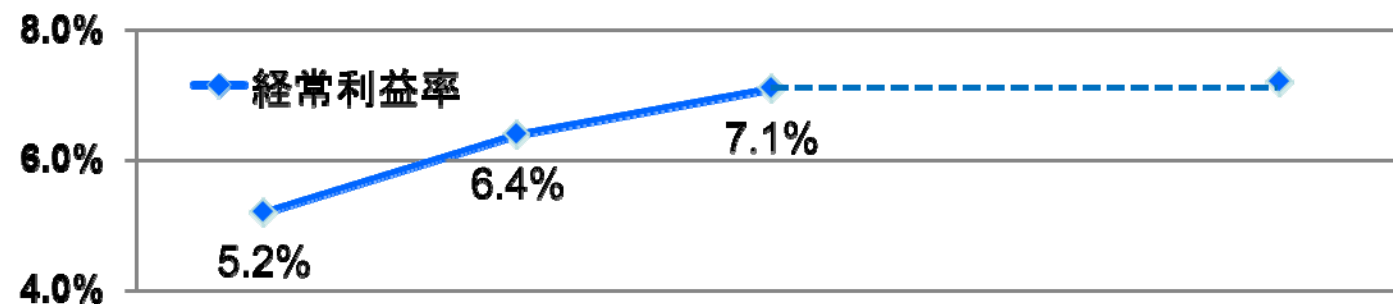
製品・技術戦略

- TPMS(タイヤ空気圧監視システム)法規化への対応
- 超高張力鋼板(超ハイテン)加工技術による軽量化
- アルミダイカスト製品による事業拡充

拠点戦略

- 日本 : 技術開発拠点、国内3極体制
- 北米/欧州 : 先進国市場への高付加価値製品拡充、多客化
- アジア : 成長市場での拠点整備、多客化

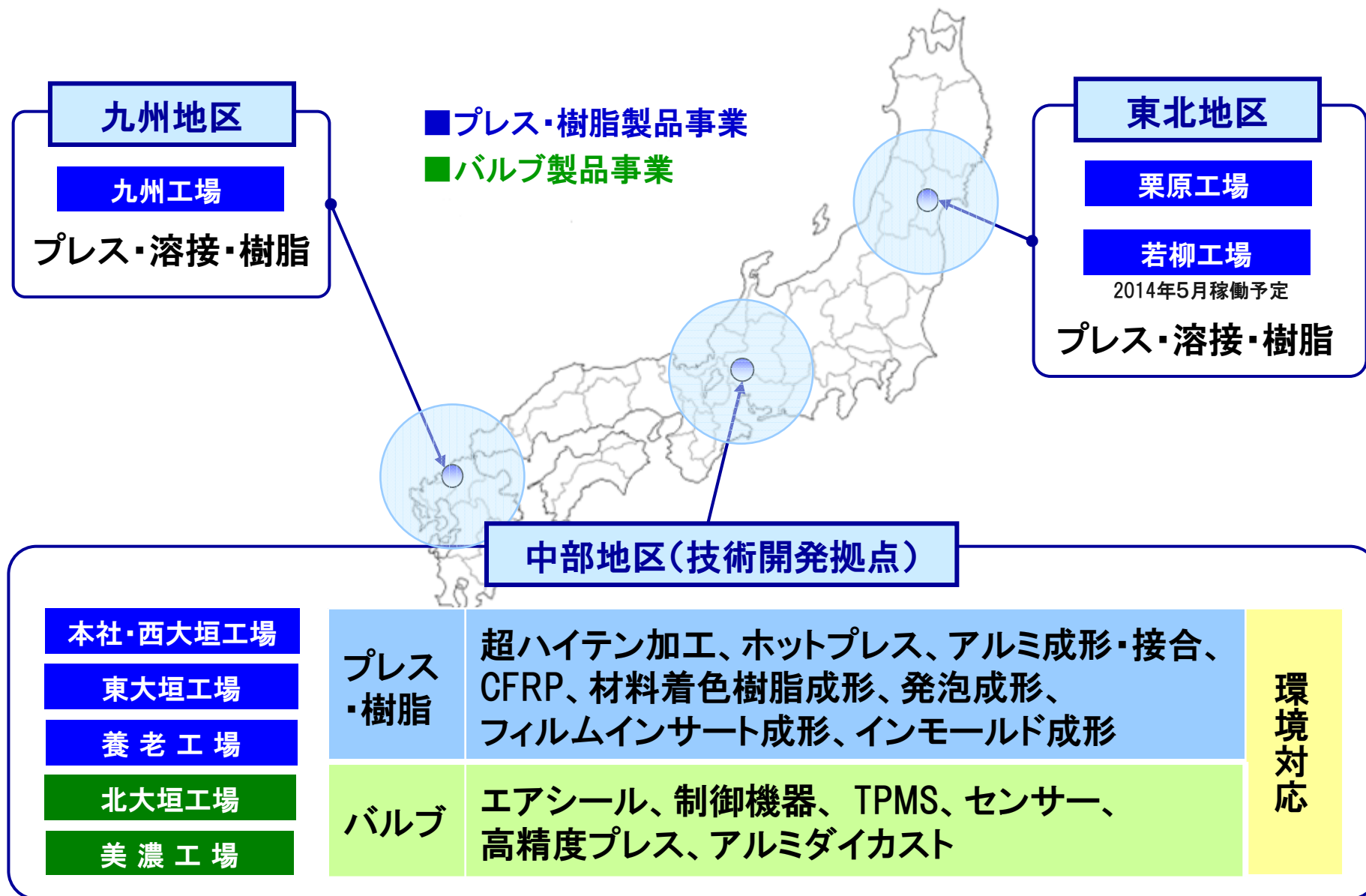
4-4 OCEAN-15の達成状況



4-5 グローカルな取り組み状況

事業	国	内容	投資額(百万円)	
			総投資	内13年度
プレス樹脂事業	日本	国内3極体制と東北事業拡充 栗原工場: プレス事業、若柳工場: 樹脂事業	2,200	—
	日本/中国	超ハイテン加工強化のため、大型プレス・ホットプレスを導入	2,400	1,700
	中国	長沙太平洋半谷汽車部件有限公司の自社工場を建設	2,600	700
	米国	北米市場拡大に向け、生産能力増強を検討	2,700	—
	タイ	ホイールキャップ等の樹脂製品を現地生産化	1,200	700
タイヤバルブ・制御機器事業	日本	高精度プレス加工の生産能力増強と新技術開発により、 '18年度迄に50%の売上拡大をめざす	1,100	200
	韓国	アルミダイカストを'16年までに40%能増予定	4,000	1,500
TPMS事業	米国	日本に次ぐ第2生産拠点として、'12年より現地生産を開始 '15年度迄に600万個/年に能増予定	800	700
	中国	中国での法規化を想定し、現地生産化を検討	500	—
環境・危機管理	日本	太陽光発電システム、自家発電装置の導入	1,200	900

4-6 国内3極体制を強化



4-7 プレス樹脂事業の拡充①

■東北地区の事業拡張

2010年5月に宮城県栗原市で稼働した「東北工場」を増築し、プレス・溶接・表面処理の一貫生産体制を構築する。

トヨタ自動車東日本(株)が宮城県栗原市若柳に所有する土地・建物を賃借し、「若柳工場」として樹脂事業を移管。

工 場	栗原工場(旧東北工場)	若柳工場
立地場所	宮城県栗原市栗駒猿飛来大長根6	宮城県栗原市若柳武鎗生江沢50
敷地面積	約89,000㎡	約17,000㎡
延床面積	約8,400㎡(増築分)	約3,600㎡
稼働時期	平成26年11月予定	平成26年5月予定
設備投資計画	約22億円	約0.5億円

※資金調達については、復興特区支援利子補給金制度に基づく融資を活用

4-8 プレス樹脂事業の拡充②

■ 超高張力鋼板(超ハイテン)部品の生産強化

日本(九州・東大垣・東北)、中国、米国に新たに大型プレス機を導入し、超ハイテンによる自動車用ボデー部品の生産を強化。西大垣工場にはホットプレス機も導入。'14～15年度にかけて順次稼働予定。



超ハイテン加工部品例
(センターボデーピラー)

■ 中国市場における競争力強化と多客化推進

- ・天津では中国ローカル自動車メーカー
長城汽車と取引開始。
- ・長沙太平洋半谷汽車部件有限公司を
設立し广汽三菱と取引開始。
'12年9月、仮工場で納入開始。
'14年7月にプレス一貫工場完成予定。



長沙太平洋半谷汽車部件有限公司
起工式('13.5.13)

4-9 プレス樹脂事業の拡充③

■北米事業の拡充

プレスから塗装までの一貫生産ラインを整備し、競争力を強化。

北米三菱や北米スバルとの取引開始。
更なる北米市場の拡大に追従するため、生産能力の増強を検討中。



カチオン電着塗装設備(’12年導入)

■タイにおいて樹脂事業を開始

Pacific Industries (Thailand) Co.,Ltd. に第2工場を建設し、ホイールキャップ等樹脂製品の生産を開始。

’14年1月より日系自動車メーカー5社へ納入開始予定。



’13年6月に竣工式を行った新工場

4-10 高精度プレス事業の拡充

■ 高精度プレス加工の能力増強

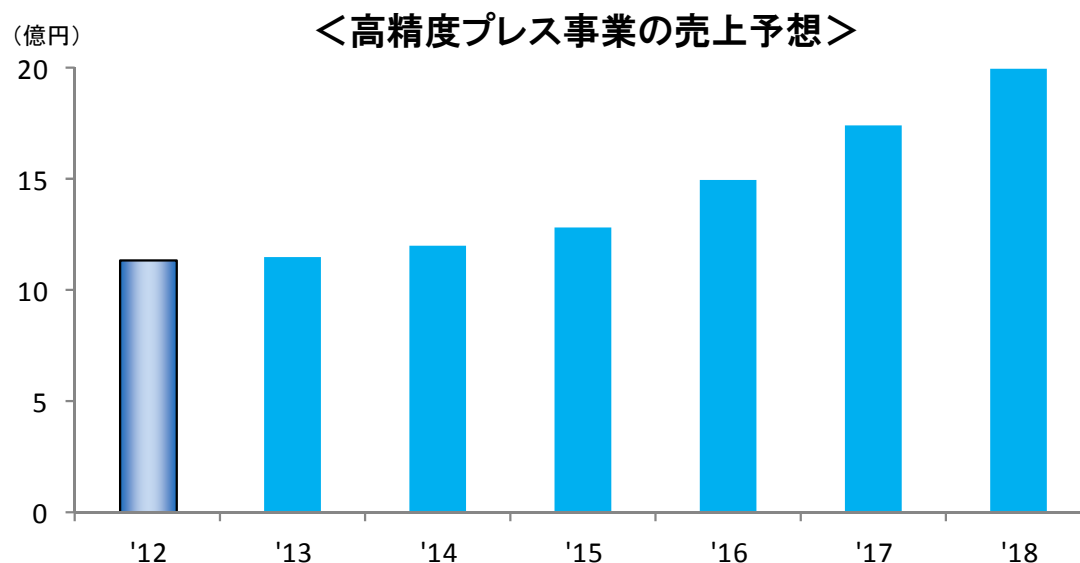
エンジン・トランスミッションの高精度部品を
ネットシェイプにより、プレス加工で製造。
生産能力増強、新技術と多客化により、
'18年度迄に50%の売上拡大をめざす。



キャリアプレート



スプロケット



4-11 ダイカスト事業の拡充

■韓国：太平洋エアコントロール工業で アルミダイカスト事業を拡充

2011年3月、現代自動車のSQ認定取得

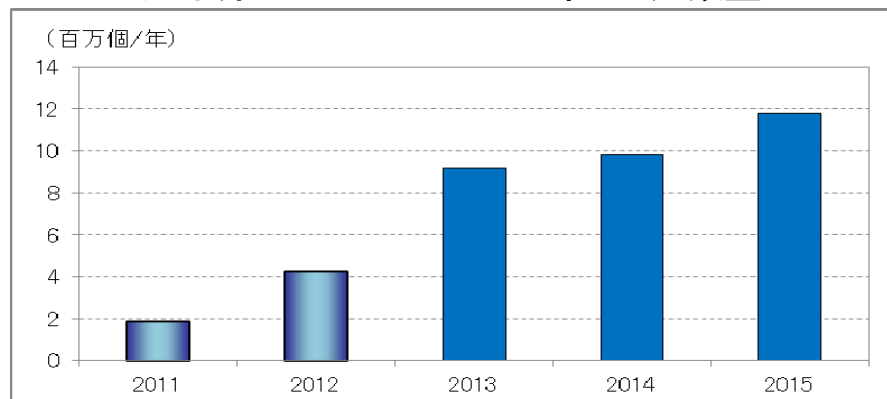
カーエアコン用コンプレッサのケーシング部品を
ダイカストから切削加工まで一貫生産。

- ・2011年度：第3工場を建設。
DC 600万個/年の生産体制構築。
- ・2012年度：DC 900万個/年の生産体制構築。
- ・2013年度：第4工場を建設。2015年度迄に、
DC 1,200万個/年の生産体制を確立予定。



アルミダイカスト製品

＜太平洋エアコントロール工業 生産数量＞

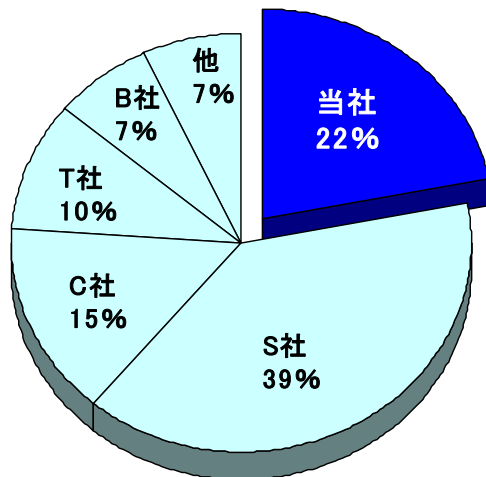


’13年10月に第4工場の竣工式を開催

4-12 TPMS法規化の状況

北米は安全規制から、欧州他は燃費規制からTPMSを導入

■TPMS送信機 北米シェア

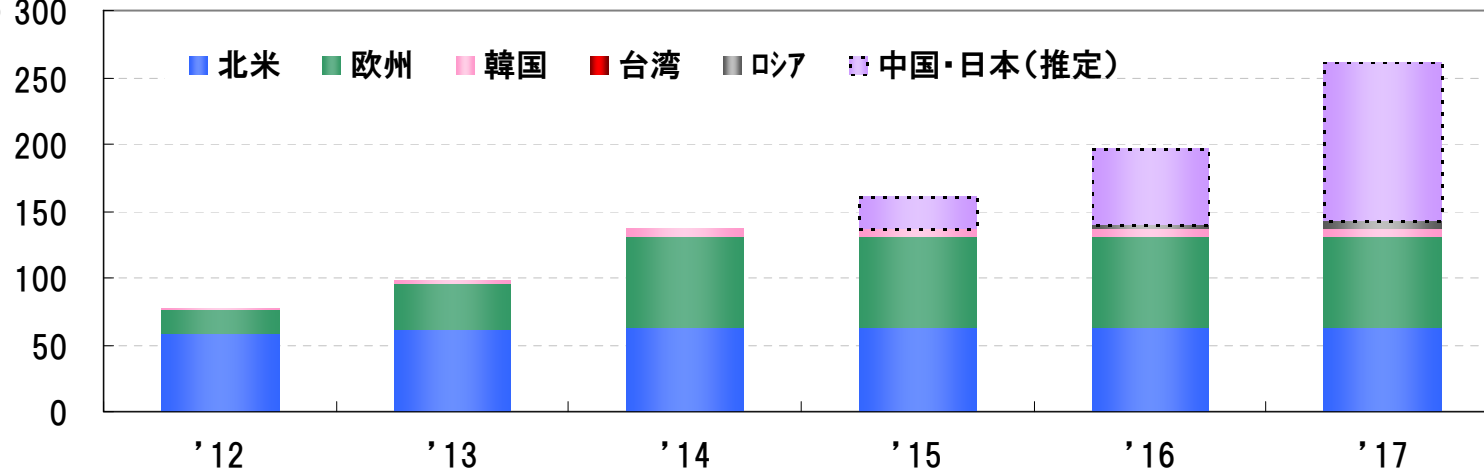


■各地域の法制化の動き

地域	法規開始年度
北米	2005年10月
欧州	2012年11月
韓国	2013年1月
台湾	2014年11月
ロシア	2016年1月
中国	未定
日本	未定

■TPMS送信機の世界市場予測

(百万個) 300



4-13 TPMS事業の拡充

■ 米国生産と欧州販売の強化

Pacific Manufacturing Ohio, Inc. において、年間300万個の生産体制を確立し、一貫生産を開始。

また、欧州域内におけるTPMS装着義務化に伴い、ベルギーに販売拠点を設立。欧州市場でのシェア拡大をめざす。



TPMS新ラインのラインオフ式

■ 中国における現地生産化の検討

中国におけるTPMS装着法規化を想定し、現地生産の検討を開始。

日系・欧州系・ローカル自動車メーカーへの受注拡大をめざす。



4-14 “超”モノづくり部品大賞

■ 新型クラウン搭載 超軽量 発泡成形エンジンカバー開発

2013年11月
“超”モノづくり部品大賞
「環境関連部品賞」受賞

化学発泡成形と塗装レス技術を用いた
世界初のエンジンカバーを開発。
軽量化・低コスト化を実現。

《過去の受賞歴》

2012年「自動車部品賞」 燃費向上2槽式オイルパン

2010年「自動車部品賞」 光輝フィルムドアハンドル



4-15 環境保全と危機管理

■太陽光発電システムの導入

2013年3月、東大垣工場に導入。
2015年までに各工場に順次導入予定。
CO2削減とともに、有事には非常用電力
として地元地域への供給も視野に入れ、
地域との共助体制強化を図る。



屋根に設置された2000枚の太陽光パネル

■自家発電装置の導入および燃料転換

危機管理の一環として、各工場への
自家発電装置の導入を推進中。
また、設備更新・新設時に、エネルギー効率
の高い設備や、CO2排出量が少ない燃料の
設備を導入し、環境保全を推進。



東大垣工場のLNGサテライト

CSRの取り組み

■CSRレポート2013発行

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/report/>



環境保全、次世代人財育成、スポーツ・文化振興などに貢献